

鏡視下手術部

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長（教授）：佐田 尚宏
 医員（教授）：Alan Lefor
 医員（講師）：俵藤 正信
 ：佐久間康成
 ：竹井 裕二

2. 鏡視下手術部の特徴

鏡視下手術部は2007年10月診療科横断的な組織として中央部門に設立された。本邦に鏡視下手術が導入されて約20年が経過し、当院での適応疾患・施行診療科も徐々に拡大している。当院の鏡視下手術施行診療科は15診療科、年間施行件数は1000件を越え、年々増加の傾向にある。

（鏡視下手術施行診療科）

消化器・一般外科
 心臓血管外科
 呼吸器外科
 腎臓外科
 小児外科
 移植外科
 形成外科
 産婦人科
 泌尿器科
 小児泌尿器科
 整形外科
 耳鼻咽喉科
 脳神経外科
 消化器内科
 麻酔科

（順不同）

2012年4月からは腹腔鏡下前立腺摘出術で手術支援ロボット加算が、他の鏡視下手術に先がけて保険収載された。本邦での手術支援ロボット導入が急速に進んでいる現状を鑑み、2013年7月には当院にも手術支援ロボット（Intuitive社Da Vinci surgical system）を導入する予定である。今後その運用、系統的トレーニングの実施などを鏡視下手術部では検討していきたい。また、これと平行して快適かつ効率的な鏡視下手術環境・機器の整備、鏡視下手術技術の向上、教育システムの確立を目指している。

3. 業績・クリニカルインディケーター

① JMU鏡視下手術シミュレーションの開催

鏡視下手術技術向上、新規手術導入への準備等を目的として、本学実験医学センター医療技術トレーニング部門と共同で、ブタを用いた鏡視下手術トレーニング（JMU鏡視下手術シミュレーションと命名）を、2か月に1回の割合で開催している。2012年は6回開催し（1回は腹腔鏡下大腸切除術の県内を対象としたセミナー）、指導医31名、修練医48名、見学者1名（延べ数）が参加した。

2012年開催実績

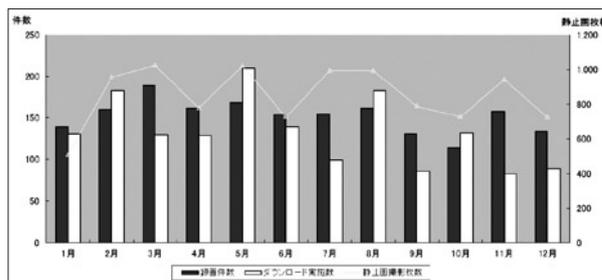
第27回 2012年2月22日（水）
 第28回 2012年5月2日（水）
 第1回栃木県腹腔鏡下大腸切除セミナー
 2012年6月10日（日）
 第29回 2012年6月20日（水）
 第30回 2012年9月7日（金）
 第31回 2012年12月21日（金）

② 中央手術部鏡視下手術機器整備

鏡視下手術部運営会議を年2回開催、鏡視下手術機器の運用・更新の統合・均一化を推進している。2010年4月に手術室録画システム（JMFS）を導入し、すべての内視鏡手術を同形式で録画、保存し、各科のカンファレンス室でストリーミング閲覧できるシステムを確立した。また、2010年10月より手術室鏡視下手術機器を最新式のハイビジョン対応リース機器7台に統一し、鏡視下手術機器の均てん化、手術室業務の軽減を実現した。

JMFSによる録画件数は2012年1,827件（2011年実績：1,506件）、動画ダウンロード1,594件（2011年実績：992件）、電子カルテシステムへの静止画出力10,175件（同：9713件）と、前年比較で約20%増加した。

月別録画件数（黒棒）、ダウンロード件数（白棒）、静止画撮影枚数（折れ線）



4. 事業計画・来年の目標

① JMU鏡視下手術シミュレーションの開催

2013年開催予定

- 第32回：2013年2月27日（水）
- 第33回：2013年4月26日（金）
- 第34回：2013年6月26日（水）
- 第35回：2013年9月6日（金）
- 第36回：2013年10月30日（水）
- 第37回：2013年12月20日（金）

② 中央手術部鏡視下手術機器整備

2013年録画システム（JMFS）端末および天吊りモニターの増設、手術室動画のiPad閲覧システム、鏡視下手術以外の術野動画配信システムの開発を予定している。

③ 鏡視下技術修練システムの整備

本学における鏡視下手術技術の向上、鏡視下手術技術基準の作成を目的に、技術修練システムの整備を計画している。JMU鏡視下手術シミュレーションを核に、ドライラボ（バーチャル、リアルシミュレーター）を組み合わせた鏡視下技術修練システム導入を、本学メディカルシミュレーションセンターと共同で推進する。鏡視下技術修練システムの整備状況を当科におけるクリニカルインディケーターと位置づけ、積極的に取り組む。

2012年栃木県内医師を対象に公開の腹腔鏡手術トレーニングセミナーを行った。今年度も、同様のセミナーを複数回開催する予定である。

④ 手術支援ロボットトレーニングシステムの整備

2013年4月Intuitive社Da Vinci surgical systemを先端医療技術開発センター（CDAMTec）に導入し、自治医科大学附属病院スタッフを中心に、ドライラボ、ウェットラボの手術支援ロボットトレーニングを実施する予定である。今後の更なる普及が予測される手術支援ロボットについて、医師・看護師・コメディカルの全学的スキルアップが実現出来る様に、系統的トレーニングシステムの構築を目指す。また、本学卒業生、栃木県内および近県の医療機関を対象とした公開セミナーも実施する予定である。